

会 議 録

会議の名称	令和6年第4回 次期総合計画等策定委員会
開催日時	令和7年1月9日（木） 午後1時00分から午後2時00分まで
開催場所	和泉市役所 庁議室
出席者	<p>【出席者】 森吉副市長、吉田副市長、大槻教育長、並木参与、山本危機管理部長、前田市長公室長、土本総務部長、山崎環境産業部長、西川福祉部長、立花市民生活部長、山本子育て健康部次長（子育て健康部長代理）、奥野都市整備室長（都市デザイン部長代理）、鍛冶教育・こども部次長兼教育総務課長（教育・こども部長代理）、辻生涯学習部長、近藤上下水道部長、岡田消防長、藤原行政委員会事務局長、藤原議会事務局次長（議会事務局長代理）</p> <p>【事務局】 （政策企画室） 門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中総括主査、江口主査、田嶋政策・資産マネジメント担当課長、加藤総括主幹、伊賀主事 （人事課） 山口課長補佐 （財政課） 古川次長、左海課長、山岡課長補佐 （有限責任監査法人トーマツ） 玉井、黒山</p>
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 土地利用構想について 2. 将来都市像と施策体系の検討状況について <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来都市像の検討状況について ・ 施策体系の検討状況について 3. 次期創発プランへの引継ぎ事業について
会議の要旨	第6次総合計画等の策定にあたり、土地利用構想に関する検討状況、将来都市像及び施策体系の検討状況、次期創発プランに引継ぐ事業の考え方の検討状況についての報告を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

	<p>【次第1 土地利用構想について】</p> <p>（事務局【政策企画室】から、資料1について説明）</p> <p>次のような質疑等があった。</p>
土本部長	○6ページについて、1960年の信太村、八坂町の合併は、正しくは編入合併であると思われるため、確認いただきたい。
事務局	○確認の上、修正する。
近藤部長	○10ページについて、例えば中部地域の説明分の5行目に「5つの中学校区を抱える大きな『地域』と記載があるほか、6行目では、「転入超過が続く『地域』と高齢化や転出等により人口減少が進んでいる『地域』というように、「地域」という単語が混在している。いわゆる4圏域を「地域」と表現するのであれば、それより小さい単位の区分は「地区」などの言葉で使い分けるべきではないか。
事務局	○「地域」と「地区」の使い分けについて、改めて文章を精査し、修正させていただく。
森吉副市長	○総合計画からゾーン分けの記載は削除し、都市計画マスタープランに委ねる方針に問題はないか。
	（異議なし）
森吉副市長	○反対意見はないようであるため、この方針で計画策定を進めることとする。
	<p>【次第2 将来都市像と施策体系の検討状況について】</p> <p>（事務局【政策企画室】から、資料2及び資料3について説明）</p> <p>将来都市像について次のように質疑等があった。</p>
辻部長	○将来都市像には目を引くキーワードがあったほうが良いのではないか。「ずっとずっと」「心地よい」「和泉生活」のような、わくわく感のあるようなフレーズが必要と感じる。ちょっと変わった将来像の打ち出し方を考えていただきたい。
事務局	○得られたキーワードをもとに、適切なフレーズを考えていく。

吉田副市長	○これからは、自立と共生とのバランスの時代で、もっといえば、そのバランスが変わる時代であるといわれている。その観点では、将来都市像の原案は、自立（自律）、自助、人権、個人の夢や幸福、社会貢献などのテーマ性が弱い印象を受けた。このテーマは、ウェルビーイング推進ビジョンや福祉系の附属機関などではさんざん検討されている議題である。本日の資料3の中で、施策体系に社会的包摂の要素が入っているが、近代的な社会的包括は、個人の尊厳や自助が前提となっている。ここ1、2年、和泉市でも様々な個別計画を策定しているが、「誰もが主人公」、「一人ひとりが輝ける」、「自己決定の尊重と意思決定の支援」、「すべての子どもの可能性」、というようなスローガンを掲げている。自立などにかかる議論は、総合計画策定プロセスの中でも、各種ヒアリングや住民意識調査の中でそういった議論があったと思われるため、改めて各種策定プロセスを再点検いただき、こういった内容を盛り込んでほしい。
事務局	○どういったキーワードが自立などの要素を表すのに必要なのかも含め、改めて将来都市像のフレーズ案を検討する。
森吉副市長	○庁内からの意見の出方は、職員WGのメンバーにもよるところであり、たまたま今回はそういった自立的な要素が出なかったと思われるが、特別職のヒアリングの際には自立的な要素は含まれていたと思われる。もう少し意見の内容を精査するか、WGに入っていない職員に対しても意見を伺うなどしてほしい。
	施策体系の検討状況について次のように質疑等があった。
土本部長	○資料3の3ページについて、現状の組織に当てはめると、室の中で担当が分かれているところがある。今後、総計の体系と組織を合わせていくという考え方があるかどうかを確認したい。
事務局	○組織ごとに施策体系を決めていく方が進行管理はしやすいと思うが、現時点では、施策体系と組織とを一致させるための機構改革は想定していない。
土本部長	○ある程度いたし方ないと思っているが、室長のマネジメントがしづらくなると感じている。
吉田副市長	○施策体系の縦割りのテーマ設定のほか、人権、尊厳、安全安心などの横ぐしのテーマがあったと記憶しているが、資料3では見えていない。縦割りの施策の検討にあたり、横ぐしのテーマの内容を踏まえているかを政策企画室が確認していくやり取りがあると考えていたが、いかがか。
事務局	○13 ページの「基礎とする視点」が横ぐしのテーマ設定のイメージである。具体的には、DXや市民協働などの視点を想定している。この視点をいくつ持つのか、どういった分野を設定するのかは、今後検討していく。
森吉副市長	○13 ページで「産業」「雇用」などのくくりを見れば、どこの課が所管するかはある程度判断できると思われる。3ページのように明確に担当課を設定する必要があるのかと

	<p>うか。必要性を説明してもらいたい。</p>
事務局	<p>○資料3で所管課を記載したのは、本日の会議で各部の所掌事務が施策体系のどこに当てはまるかを参考として示しているだけであるをご理解いただきたい。現時点での想定では、総合計画には基本構想を中心に記載していくため所管課の設定はされないが、創発プランには具体的な事業が所管課別に掲載されるイメージである。</p>
山本部長	<p>○10ページの考え方について、「ヒト・モノ・カネ」という表現は、市が書くものではないのではないか。</p>
事務局	<p>○詳細な言い回しは検討する。</p> <p>【次第4 次期創発プランへの引継ぎ事業について】</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料4-1及び4-2について説明)</p> <p>次のように質疑等があった。</p>
森吉副市長	<p>○次期創発プランへの引継ぎ事業として掲げている事業は、各課との調整未了の事務局案であることを補足する。</p>
山崎部長	<p>○「33. 基幹農道整備の検討」について、事業化の条件の見通しが立てば創発プランへの位置づけが再検討されると記載されているが、これまでの創発プランであれば、期間中に新たに事業を追加する場合の一定の基準があったと認識している。次期創発プランの期間中に新たに事業を盛り込む場合の基準があれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>○現時点では、新たに事業を盛り込む場合の基準は未整理である。これまでの創発プランは5か年計画であったため、中間見直しを行っていたが、次期創発プランは4か年計画となるため、中間見直しの可能性は低い。</p> <p>新たに事業を盛り込む場合の基準を設けるとすれば、資料4-1の1ページ目の○の3つ目「○和泉創発プランの計画期間を含む中・長期の財政収支見通しに大きな影響が想定される事業」の条件に似た形で整理する想定である。</p>
山崎部長	<p>○「33. 基幹農道整備の検討」についても事業の見通しが立てば創発プランへの引継ぎが検討されるものと理解した。見直し時期について、4か年計画であるから中間見直しがないというのは、どういった理由か。</p>
事務局	<p>○これまでの創発プランは市長公約の反映を契機として中間見直しを行っていたが、次期創発プランを市長任期とあわせた4か年計画となる点が従来と異なる。</p>
吉田副市長	<p>○1点目として、引継ぎ事業は、総合計画に落とし込む際に、新しい総合計画の施策体系に対応させるという理解でよいか。単に事業を継続するだけにはならないか。</p>

事務局	<p>2点目として、「23. 高齢者お出かけ事業」は令和8年に見直しを行うため事業としては廃止されるが、施策テーマとしては重要であることに変わりない。事業を引き継ぐことと、施策テーマを引き継ぐことの方の整理は必要である。</p> <p>3点目として、財政健全化は、個別の事業のスクラップ・アンド・ビルドを行うミクロの視点だけでなく、大きな財政健全化の考え方がある。例えば、市営住宅を公営で行うべきか、介護予防は税金で賄うべきか、障がい者医療の全てを税金で賄うのか、といった大きな方向性の話が出てこないため、そういったマクロの視点を総合計画の中でどう取り扱うのか。</p> <p>○1点目について、ご認識のとおり、新しい総合計画の体系の中に整理される想定である。</p> <p>2点目について、施策テーマと事業に関しては、取組事業の粒度感が個別の事業になっているものもあれば、お出かけ支援のように大きなテーマが事業になっているものがある。事業の打ち出し方、見せ方の整理ができていないため、そのような状況になっているが、今後は施策なのか事業なのかを整理したうえで調整したい。</p> <p>3点目について、今回報告した内容は個別の事業を引き継ぐかどうかになっている。ご指摘の障がい者医療などの個々の大きなテーマや、それ以外にも全体的なテーマということで健全化項目が必要である。マクロの視点をどのように総合計画と創発プランで見せていくか、検討する。</p>
事務局	<p>○できれば、総合計画、創発プランに掲載する事業とテーマのレベル合わせは行いたいと考えている。例えば、「7. 学力向上推進事業」と「8. 中学校少人数学級編制事業」という事業があるが、後者は1つの事業であるが、前者はAIドリルや和泉希望塾のような複数の事業をまとめたものになっている。後者も実際は前者に含まれるものの、特定の事業を抽出するような形となっており、そういった点は今後整理したい。</p>
大槻教育長	<p>○テーマはテーマ、事業は事業として、それぞれあるものとして切り分けて考えなければならない。テーマと事業が混在しては、結局どの事業も必要だということになってしまうのではないか。</p>
事務局	<p>○その点は今回の総合計画と創発プランの大きな課題であると認識している。総合計画には具体的な取組事項は入れないため、総合計画で掲載する抽象的な目標と創発プランで掲載する具体的な取組をどうリンクさせていくかを引き続き検討していく。</p>
西川部長	<p>○吉田副市長がおっしゃった財政健全化のマクロ視点に関し、介護予防に関しては市の方針を決めているが、障がい者医療などの部分については、財政健全化の取組として市だけが考えていくということは制度上難しいのではないか。</p>
事務局	<p>○法的な規定があるものまで削減するつもりはないが、法律の中でどこまで市が対応していくかという検討は可能と思われる。書き方は工夫しなければならないが、増加していく障がい者医療費などを含めて何の手立ても行わないというわけにはいかないという視点ではないかと思われる。そういった点もどう計画に落とし込んでいくかは検討する。</p>

吉田副市長	○補足として、一般会計と特別会計どちらでいくべきか、つまり、どちらも国民負担ではあるが、税金なのか保険料なのかという点も、財政健全化の要素に入ってくるのではないか。
森吉副市長	○それでは、本日の委員会については以上とする。

以 上